

今週の為替相場見通し(2017年4月3日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.11 ~ 112.21	111.40	110.00 ~ 113.00
ユーロ	(ドル)		1.0651 ~ 1.0906	1.0653	1.0500 ~ 1.0700
(1ユーロ=)	(円)		118.65 ~ 120.44	118.70	118.00 ~ 120.00
英ポンド	(ドル)		1.2377 ~ 1.2615	1.2550	1.2350 ~ 1.2550
(1英ポンド=)	(円)	*	137.53 ~ 140.10	139.81	138.00 ~ 140.50
豪ドル	(ドル)		0.7587 ~ 0.7679	0.7628	0.7500 ~ 0.7800
(1豪ドル=)	(円)	*	83.83 ~ 85.77	84.98	84.00 ~ 87.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 島田 貴章

(1)今週の予想レンジ: 110.00 ~ 113.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

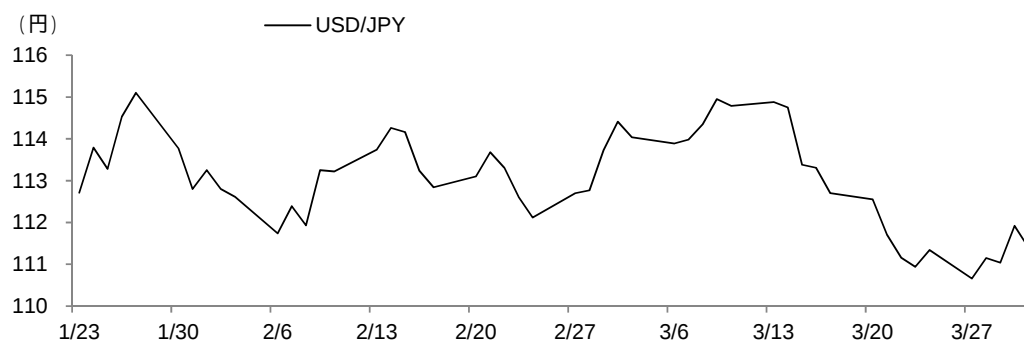
先週のドル/円相場は米政権の政策遂行能力を巡る思惑から上下する展開。週初27日、ドル/円相場は111円台前半にてオープン。前週金曜日の医療保険制度改革法(通称オバマケア)代替法案の採決見送りを受け、トランプ政権の政策遂行能力への懐疑的な見方が台頭する中で週安値110.11円をつけた。翌28日、米国時間にはリビアの原油減産に関する報道を受けた原油先物価格の上昇、フィッシャーFRB副議長による「2017年はあと2回の利上げがおおむね適切」との発言を受けた米金利上昇を受け、111円台をつけた。週央29日、前日に引き続きFRB高官から2017年中の3回~4回の利上げを示唆する発言が続く中でドル/円相場は111円ちょうを中心とするレンジ内にて推移。翌30日、発表された米10~12月期GDP(3次速報値)の上方修正を受けて111円台半ばまで上昇したが、「トランプ米大統領は為替操作国に対するペナルティを検討」との報道を受け111円ちょうど付近まで急落。その後はOPECの減産合意延長への期待から原油先物価格が上昇する動きや米金利の上昇を背景にドル/円相場は上昇に転じ、111円台後半まで上昇。週末31日、前日の流れを引き継ぎ週高値112.21円まで上昇。その後はダドリーNY連銀総裁のハト派寄り発言などを材料に徐々に水準を下げ、111円台半ば水準にて越週した。

今週のドル/円相場はレンジ内での推移を予想する。先々週のオバマケア代替法案の採決見送りに伴う、米政権の政策遂行能力への懐疑的評価による「トランプラリー」巻き戻し懸念は、先週前半時点で一旦は和らいだ状況。新規材料が浮上しない限りにおいては、ドル/円相場の下落を積極的に狙いがたい印象を受ける。一方で、今週から本邦企業の多くは新年度に入り、機関投資家による外債の積極的な購入が想定され、ドル/円相場を下支えすると予想される。但し、足許の状況を振り返れば外債投資の大部分はヘッジ付き投資となることが考えられ、影響は限定的となるだろう。売り・買い双方ともに決め手不足との印象であり、ドル/円相場は雇用統計などの経済指標を材料としながらのレンジ相場を形成すると予想する。なお、そのほかの経済指標・イベントとしては、3日(月)に米3月ISM製造業景気指数、4日(火)に米2月貿易収支、5日(水)に米ISM非製造業景気指数およびFOMC議事要旨(3月14~15日開催分)公表、7日(金)に米3月雇用統計の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/27~3/31)の値動き:

安値 110.11 円 高値 112.21 円 終値 111.40 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1) 今週の予想レンジ: 1.0500 ~ 1.0700 118.00 ~ 120.00 円

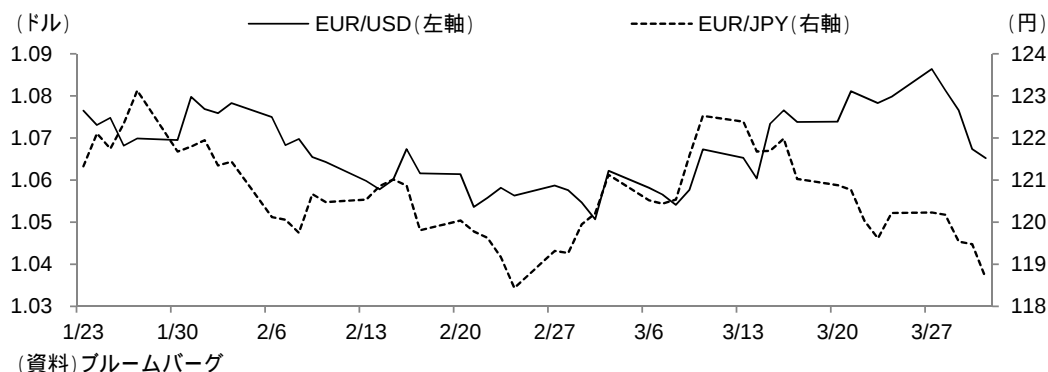
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は軟調推移となった。対ドルでは週初24日、1.08台前半でオープン。前週末にオバマケア代替法案が撤回されたことを受けて米金利が低位推移する中、週高値となる1.0906をつける。しかし週央29日、ECB関係筋の話として「3月ECB理事会のメッセージは読み込まれ過ぎている。あくまでテールリスクが後退したのみで出口への一步を示唆したものではない」と報じられ、一部に広がっていたECBテーパリング観測が後退。また、EU離脱正式通知がなされた英国の離脱交渉が難航するとの見方が広がる中、1.07台半ばまで下落した。その後も弱含む中、週末31日に発表された欧州3月消費者物価指数(HICP)が予想を下回ったことでECB緩和観測はさらに後退。週安値1.0651をつけた後、1.06台半ばで越過した。対円では週初24日、120円ちょうど近辺でオープン。週央29日に週高値120.44円をつける場面もあったものの、対ドルでユーロが下落する中、軟調に推移。週末31日には週安値118.65円をつけ118円台後半で越過した。

今週のユーロ相場は軟調地合いの継続を予想。まず、急速に高まったECBの量的緩和縮小(テーパリング)観測は一旦後退しそうだ。確かに、理事会後の記者会見でドラギECB総裁はテールリスクが後退しているとは発言しているものの、次の一手については言質を与えていない。中期的に上昇傾向にある物価動向を踏まえ、今後の緩和手段の出口戦略や金利見通しについて、ECBで議論が深められる可能性はある。しかし、早急に方向感が固まるとは考えにくい。そのため、今週はテーパリング観測の後退がユーロの上値を押さえそうだ。次に、米国に目を転じれば、6日(木)~7日(金)に米中首脳会談、7日(金)に米3月雇用統計が予定されている。トランプ大統領は昨年の選挙期間中は貿易赤字相手国として中国を強く非難してきただけに、すぐにきびすを返す態度をとった場合、オバマケア代替法案採決見送りのように政権の政策実現への期待がより一層後退しかねない。但し、中国としても今年は秋に中国共産党全国代表大会が開催される5年に1度の節目であり、内外に安定した政権運営力を示す必要から容易に立場を変化させるとも考えがたい。しかし外交上、決裂する会談をわざわざ行うとも考えがたく、無難に通過してリスクセンチメントは悪化しない展開を期待したい。また、米3月雇用統計は、今後の利上げのペースを占う上でも重要だ。既に2か月連続して非農業部門雇用者数が前月比+20万人を超えてきているが、3月については増加ペースが鈍化すると考えられる。もっとも、同+20万人を下回る程度の結果が予想されており、発表後は緩やかな利上げが正当化されドルが堅調に推移することとなり、ユーロの上値を押さえると見込む。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/27~3/31)の値動き: (対ドル) 安値 1.0651 高値 1.0906 終値 1.0653
(対円) 安値 118.65 高値 120.44 終値 118.70



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2350 ~ 1.2550 138.00 ~ 140.50 円

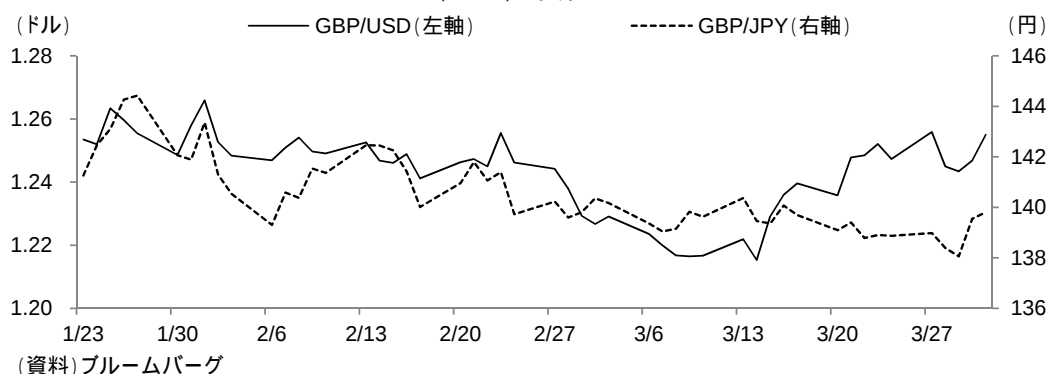
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、週央に掛けて下押し、その後底打ち、週引けまで堅調を維持した。振り返って対円、対ユーロで水準を切り上げた一方、対ドルで小幅に下押ししたのは、ポンド安というよりもドル高の結果と言えただろう。ドルの全般的な堅調にも、週央のポンド下押しにも、これと言って決め手になる材料があったようには見受けられなかった。米医療保険制度改革法(オバマケア)の撤廃・改正に失敗したトランプ大統領が、次の政策目標を税制改革に切り替えたり、米国内の燃料資源開発を促進するためオバマ前政権の地球温暖化対策を全面的に見直す大統領に署名したりと、迅速な対応を取ったことが好感され、米株の底打ち反転と並行してドルが反発したと取えて考えることはできただろう。欧州中銀による金融緩和策の早期引き揚げ期待が後退した(29日)ことも、ユーロに対するドル反発を促すことで、ドル全般の反発を助長したようだ。28日のポンド全面安にしても、翌29日と予告されたりスポン条約50条(離脱条項)発動がひとつのきっかけを与えた可能性は考えられたものの、従前から予告されていたものが予定通り発動されることでポンド売りを誘う値動きは些か腑に落ちないものであった。その他、24日発表された英銀協(BBA)の2月住宅ローン承認件数、31日のネーションワイドの3月住宅価格、英10~12月期GDP確報値など一連の英経済指標は、軒並み市場予想を小幅に下振れたが、ポンドが材料視した様子はほとんど読み取れなかった。

今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた横ばいを予想。英のEU離脱手続きは漸く緒についたものの、それで離脱条件や離脱後のEUとの関係がすぐさま明確になるわけでは勿論ない。英を除くEU加盟27か国が首脳会議を開催し、交渉方針を確認するのが4月29日で、デイビス英離脱担当相がバルニエ欧州委員(離脱交渉責任者)と初めての公式会合を持つのは5月後半から6月初と見られている(5月22日との観測も聞かれている)。ただ、現在までに、交渉が英にとって困難なものになることは相応に確定的に見える。29日以降、トウスク欧州理事会議長(欧州大統領)は、「27か国が一枚岩となって交渉に臨む」必要を強調しているし(英の常套手段である「切り崩して、征服する」が通用しない)、EU側の首脳(メルケル独首相やオランド仏大統領など)は「まず離脱条件を確定した上で、貿易交渉などに移る」姿勢を繰り返し明言している(英は同時並行的な交渉を望んでいる)。また、メイ首相が離脱通告に盛り込んだ「安全保障における協力を自由貿易協定の見返りとする」かの方針には、早くも各方面から批難が集まっている。交渉の紛糾は、英経済だけでなく、EU経済に対しても打撃には違いないが、英の被る打撃の方が(経済規模との比較で)甚大であることは間違いない。こうした現実、交渉の行方が不透明な間はポンドを積極的に買い上げるわけにはいかない状況を生む一方で、既にこれまでのポンド下落に相応に織り込まれているとも考えられる。交渉に明確な進展・変化でもない限り、方向感を欠いたポンドの膠着を見込む所以である。英経済指標では、英各種購買部指数(3日(月)製造業、4日(火)建設業、5日(水)サービス業)の他、7日(金)に英2月鉱工業・製造業生産、英2月貿易収支、ハリファックスの1~3月住宅価格などの発表が予定されるが、金融市場の関心は高くないと思われる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/27~3/31)の値動き: (対ドル) 安値 1.2377 高値 1.2615 終値 1.2550
(対円) 安値 137.53 高値 140.10 終値 139.81



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 西谷 鷹

(1) 今週の予想レンジ: 0.7500 ~ 0.7800 84.00 ~ 87.00 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

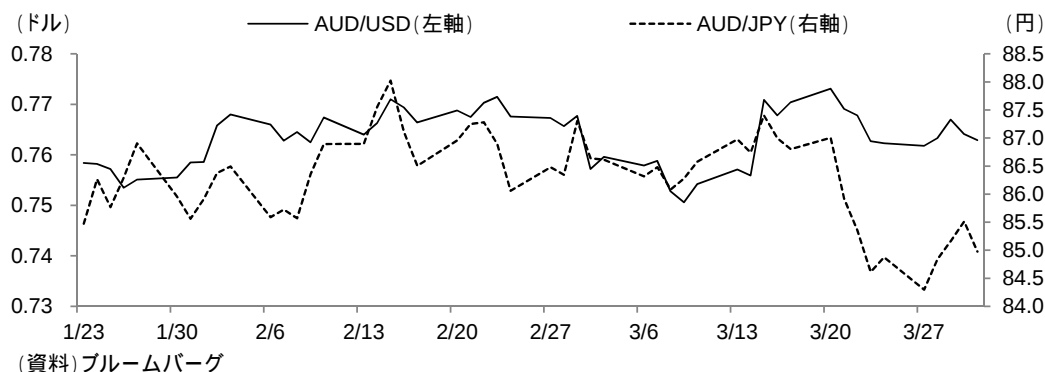
先週の豪ドル相場は堅調な推移となった。週初27日に対ドル0.76台前半、対円84円台半ばでオープン。前週末にトランプ政権によるオバマケア代替法案が撤回されたことを受けてドル売りの流れが強まると、豪ドルは対ドルで0.76台半ばまで上昇。しかしその後、原油や鉄鉱石などの商品価格が下落したことを背景に、0.76台前半まで反落した。28日は、特段材料のない中でストップロス巻き込みつつ一時週安値となる0.7587まで値を下げる場面が見られたものの、海外時間に入り原油価格が上昇した動きを受けて、豪ドルも0.7660近辺まで反発。29日は、メイ英首相がリスボン条約第50条を発動しEUに対して正式に離脱を通告したものの、事前アナウンスされていたため豪ドル相場への影響は限定的となり、0.7650を挟んで揉み合い推移が続いた。30日は引き続きレンジ相場となる中で一時週高値となる0.7679まで上昇。しかし、海外時間に入り発表された米10~12月期GDP(確報値)が市場予想比良好な数字となったことや、FRB高官から相次いでタカ派な発言が伝わったことなどを受けて米金利が上昇する流れになると、豪ドルは0.7640近辺まで反落。翌31日は特段方向感なく推移し、対ドル0.76台前半、対円85円近辺で越週した。

今週の豪ドル相場は堅調な値動きを予想する。米国では7日(金)に米3月雇用統計が発表される。先週金曜日にダドリーNY連銀総裁が「今年あと2回の利上げが妥当」と発言している通り、多くのFRBメンバーは前回3月FOMCでの利上げを含めて年3回利上げが緩やかな利上げペースとして適切と考えている模様だ。仮に今回の雇用統計が良好な結果となった場合でも、市場の利上げ期待が急速に高まるとは考えにくい。今後、FRBメンバーより年4回利上げの可能性を強く示唆するような発言が目立つようになれば、市場はドル買いで反応すると思われるものの、足許ではむしろトランプ政権への失望感から政治的混乱が連想され、FRBの正常化シナリオが想定通り進まないとの見方からドル売りが強まる局面の方が多いと思われる。豪州では4日(火)に豪州準備銀行(RBA)の金融政策決定会合が開催される。国内のインフレ率が下げ止まりを見せていることから、RBAの利上げサイクルは一旦終了したと見る向きが大勢で、今回のRBA理事会でも政策金利据え置きが予想されている。大きな波乱なく通過することが見込まれるが、一部市場関係者の間で年内に利上げとの声もあることから、RBAがタカ派寄りの姿勢を覗かせることがあれば急激に豪ドル高に振れる可能性もあり注意が必要。また、足許弱含んでいた原油価格がここ数日復調の兆しを見せていることも豪ドル相場にとって追い風だろう。背景には5月に開催予定のOPEC総会において協調減産の期間が延長されると思惑がある。昨年11月の減産合意後の高値水準である54ドル近辺まで原油価格が続伸する展開となれば、豪ドル相手をサポートする材料になると考えている。今週の豪州の主な経済指標は3日(月)に2月小売売上高、4日(火)に2月貿易収支の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/27~3/31)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7587 高値 0.7679 終値 0.7628
(対円) 安値 83.83 高値 85.77 終値 84.98



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。